



世界へのプレゼントになろう

# パワー浜松ロータリークラブ週報

## クラブテーマ: 全員参加で繋がりをより深めあおう

パワー浜松ロータリークラブ (2015-16年度 会長: 知久 武 幹事: 鈴木 尚孝)  
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307 号室  
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp  
http://www.power-hamamatsurc.jp

創立: 2002年10月22日 認証伝達式: 2003年4月29日 スポンサークラブ: 浜松中RC

### 第627回例会 5月24日 AM7:30~8:30

オークラクトシティホテル浜松3Fチェルシーの間

- 司会: 加藤ひとみ 松井進 ●点鐘: 知久武
- ゲスト: (一社)日本ほめる達人協会 特別認定講師 武藤隆是様
- 議事: ロータリー情報部会「心をひらくほめ達の魔法」

〈出席報告〉

会員数 78名  
出席数 65名 出席率 83.33%  
前々回出席率 84.62%

#### ■会長挨拶

知久会長: 昨日は東京にいましたが、サミットの関係ですか、そこいら中に警官がいてビックリしました。沖縄の米軍の関係者が女性を襲った問題やアイドルを目標していた女子大生が殺された問題、何故ガンが増えているのか。世の中、文明は進んでいるけれども犯罪は本当に減っているのかなと感じています。根本的な問題が改善されていないのではないかな。それは今日お話しいただける「心の問題」かなと思います。

持って帰れる様、毎日一生懸命練習に励んでおります。ビーチテニスはマイナーなスポーツですので注目度はまだまだ少ないと思います。どうぞ皆さんで応援よろしくをお願いします。

#### ■幹事報告

鈴木尚幹事: 本日例会終了後、理事会があります。6月最終例会で100%出席者の表彰を行います。

5/28~6/1までソウルでロータリーの世界大会が開催されますが、当クラブからは高員会員が参加されます。

#### ■スマイル

知久会長、鈴木幹事: 武藤様、本日はお忙しい中、貴重な卓話を頂きありがとうございました。ほめることは、甘やかせたりすることではなく、ほめることによって「心のエアバッグ」が作動して、相手が元気になり、勇気がわくということが分かりました。武藤様におかれましては、ますますのご健勝と「ほめ達」のさらなる普及を心より祈念申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

野田会員: ビーチテニスプレイヤーである姪っ子の高橋友美がロシアのモスクワで7月12日から開催されます世界大会、ワールドチームチャンピオンシップに日本代表として出場することが決定しました。日本にメダルを



■議事 ロータリー情報部会

「心をひらくほめ達の魔法」

講師：武藤隆是様 日本ほめる達人協会特別認定講師

略歴 ・浜松生まれ

- ・1991年 電通ワンダーマンダイレクト
- ・1995年 (株)ムトウ(現 (株)スクロール)
- ・1998年 常務取締役役に就任
- ・2009年 (株)FUNtoFUN 代表取締役社長  
(株)Branding for 代表取締役社長
- ・2012年 (株)Borelo 代表取締役社長

脳が全力で自動的にフル回転するとき、脳の前頭葉が全開になりますが、笑顔は脳の前頭葉を全開にするものです。具体的に言うと根拠のない自信に満ち溢れている時もそれです。笑顔が、脳の前頭葉を全開にするスイッチになります。笑わない人は脳卒中の率が高くなります。

ほめ<sup>たつ</sup>達の言うほめるとは、「人、モノ、起きる出来事」の価値を発見して伝えることです。初対面のとき気難しい人だなどと思うと、人はラベルを貼って2回目以降はそういう見方をします。これは人が不安材料を集める本能で仕方がないことですが、ほめ達になったら自覚をして心の視野を意識して広げていけるようになり、人の価値を見出すことができるようになります。物の価値を発見でき、人に伝えることができるようになります。みなさんは経営者ですから、ほめ達になればサービスや商品の価値を伝えることができます。どんなサービスや商品でも、価値を伝えることができないと、その商品やサービスが存在しないのと同じです。起きる出来事の価値を発見する。それはピンチはチャンスになります。ピンチの横にはチャンスがあります。どんな出来事でも、起こった出来事をどのようにとらえるかで変わってきます。

どんな良い話でも決断して実行しないと何にもなりません。微差の積み重ねがやがて大差になります。

「しかる」も「ほめる」も根底に愛があります。あなたは「ほめ貯金」はどれくらいありますか。

言葉の3Dと言われるのがあります。

「でも」「だって」「どうせ・・・」

この言葉の3Dを言わないことが大事です。

ゴルゴ松本は少年院に行ってこのように話します。

「人はつらいとき苦しいときに「うっせーな」と吐くが、この吐くということは大事なことだ。吐くという字は口辺に十と一と書くが、夢をかなえる人はだんだんマイナスなことを言わなくなる。するとどうなる。夢が叶うようになるんだ。」

ほめ達では言葉の3Dを言わないようにしましょうと教えます。

人や物事の短所を、長所に言い換える訓練をしましょう。気が弱い、空気が読めない、短気だ、決断力がない、けちだ、わがままだ、これらの一般的な短所を長所にいかえましょう。気が弱い→優しい、などです。

物事や人は常に多面体です。角度を変えてみると全く違って見えます。人は立場が違えば同じ事が違って見えます。ほめ達は常に良いところを見ます。

価値を発見して伝えることは大事です。無理やりでよいので、マイナスをプラスに変えて伝えます。

「すごい!」「さすが!」「すばらしい!」

まずはほめましょう。そして後から理由を考えましょう。

チャンスといえない、感情に合わない、理屈に合わない腹が立つことを言われたときは、こう言いましょう。

「そうくるか」「そっち?」「惜しい」

そして、ほめられた時は素直に「ありがとうございます。」と言いましょう。

